

# みうらピースデー

三浦市は、昭和29年の太平洋ビキニ環礁におけるアメリカの水爆実験により、三崎港から出漁していたマグロ船が被災したという悲惨な体験をしています。そのような歴史をふまえ、平成3年に、「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」という非核三原則の完全なる遵守を求め核兵器のない平和な世界を実現することを願い「核兵器廃絶平和都市宣言」をしました。

今年は、被爆・終戦70周年という節目にあたることから、「みうらピースデー」を開催いたします。戦争がない平和で安心して暮らせる世界を築くためには、一人ひとりが平和について考えることが必要です。一人でも多くの皆様が、改めて被爆の悲惨さや平和の尊さを考えていただく良い機会となることを心から願っております。

## 上映作品の紹介

### ■ 夏服の少女たち(平成元年制作)

昭和20年8月6日、学徒動員で建物の取り壊し作業にあっていた13歳の少女たちの頭上に閃光が走った。そして、物資の乏しい中彼女たちが自らの手で縫い上げた夏服だけが、無残に焼け焦げボロボロになって親元に戻ってくる…。

広島に投下された原爆で亡くなった13歳の少女たちの物語と、原爆でボロボロに燃えた少女たちの夏服を今なお形見として守り続けている年老いた親たちの忘れることのできない原爆の悲劇を描いた作品です。

### ■ ヒロシマに一番電車が走った(平成6年制作)

原爆投下のわずか3日後、広島の街に路面電車が走り出しました。「地獄に電車は走らん。だからこそ電車を走らせる。ここは地獄じゃないということを、皆に知らせて欲しいんじや…。」

戦争に行った男たちに代って車掌を務め、原爆で傷つきながらも、生き残った人々のために、電車に乗り込んだ少女たちの姿を描いた作品です。

## 平和の標語とは？

### ■ 平成27年度「平和の標語」募集

三浦市では、被爆・終戦70周年という節目を迎える本年、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、平和を願う心を育むことを目的に、平和行政の取組の一環として、小中学生を対象に平和の標語(読みやすく、ひと息で読める程度の短文)の募集を実施しました。

※昨年度は、ビキニ事件から60周年の節目の年にあたり、新たな平和の象徴として、広島の被爆アオギリの苗木(被爆アオギリ二世)を植樹するとともに、標語の募集を実施しています。

平成26年度 平和の標語最優秀賞受賞作品

「この世界 平和にしよう みうらから」

※駐車場(有料)に限りがありますので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。